

4) 日本史Bの研究授業

ア 授業デザイン

教科	地理歴史	科目	日本史B	授業者	安藤 均
実施日時	平成30年 11月 5日 3時限			対象クラス	2年 E組 (26人)

【第一段階 求められている結果】 ※ 理解の6側面（説明、解釈、応用、パースペクティブ、共感、自己認識）

単元名	鎌倉幕府の成立／武士の社会
⑥ 単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の権力の多層化の特徴を理解したうえで個々の歴史事象を適切に位置づけることができる。 ・古代から中世にかけて武士の呼称や役割がどのように変化・継承されたかを理解できる。 ・史料や教科書の記述等を根拠として、自分なりの理由付けをしながら考えや事実を他者に伝えることができる。 ・古代・中世・近世の大きな時代変化の中で歴史事象を捉えようとする。
⑩本質的な問い	<ul style="list-style-type: none"> ・「中世」とはどのような時代か。 ・「中世」という時代に武士が果たした役割とは何か。 ・「武士」とは何か。
①理解 重大観念と誤解	<ul style="list-style-type: none"> ①「中世」というと鎌倉幕府や室町幕府のような武家政権の時代として捉えがちであるが、武家（幕府）と公家（朝廷）・寺社が相互補完的に役割を果たしたり秩序の維持を図ったりした時代であった。 ②武士は権力関係を安定させる仲介役として位置づけられる。 ③武士の定義・性格は時代・地域により大きく異なる。
⑫知識 ⑮技術	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 公武二元支配 地頭 荘園 治安維持 年貢 開発領主 荘官 在庁官人 御家人 侍 ⑮ 朝廷や公家、寺社に対して武士が果たした役割を史資料にもとづいて明らかにし、三者の関係性を図示することができる。

【第二段階 評価のための証拠】 ※ 該当する項目を枠で括る又は記入する。

評価のための証拠	パフォーマンス課題、テスト、小論文、 <u>振り返りシート</u> 、作品、 <u>生徒の応答</u> 、 <u>生徒の質問</u> 、 <u>観察</u> その他（ ）
ルーブリック	<u>有</u> (別紙) ・ 無

【第三段階 学習計画】 ※ W (目標) H (関心) E (経験) R (振り返り) E (評価) T (調整) O (組織化)

1 各授業のテーマ (主となる学習活動の内容や問い等)

第1時の内容	鎌倉幕府はどのようにして成立したか。
第2時の内容	中世の武士はどのような役割を果たしていたのか。(本時)
第3時の内容	北条氏や後鳥羽上皇にとって将軍とはどのような存在だったのか。
第4時の内容	北条氏はなぜ一世紀以上も執権政治を続けることができたのか。

2 予習 (有 ・ 無)

内容分量	絵巻物に登場する武士の姿(武士の館)から武士の果たす役割を考えさせる。 武士に関する教科書の記述内容の確認(古代～近世)
------	---

3 問いの構造

①つかみの発問 (導入の発問)	中世に武士はどのように描かれるのか。 予習の絵画資料について内容確認。
②課題提示の発問	「中世」に武士はどのような役割を果たしていたか。
③思考拡散の発問	武士は古代～近世にかけてどう呼ばれていたか。予習ワークシートの確認。
④思考焦点化発問	武士は下部構造の中でどのような関係性をもったか。 教科書中の三箇所(図p.81、87、99)に結びつけ関係性を探らせる。
⑤思考深化の発問 (洞察促進発問)	なぜ中世に武士は力を持つことができたのだろうか。どのような役割を担ったのか。 史料を割り当て、簡単なジグソー学習を行う。
⑥評価の発問及び生徒の質問	本授業で明らかにならなかったことについて、問いを立ててみよう。 (質問例：武士の活躍した「中世」とはどのような時代か。 「古代」と「中世」を区分するものは何か。)

イ 学習指導案

日時	平成30年11月5日(月)3限	クラス	2年 E組(男5人、女21人)	2E教室
教科書	山川出版社『詳説日本史B』		副教材	浜島書店『新詳日本史』
単元名	鎌倉幕府の成立/武士の社会			
単元観 生徒観 指導観	生徒は用語の暗記に終始しがちであり、本質的に時代の特徴を理解することがなかなかできない。特に中世は権力の多層化が続いた時代であるので、時代の特徴を把握することが難しい。こうした時代の特徴を様々な史料の読み取りを通じて生徒に発見させ、そこから各政権のしくみや武士の役割、及び歴史のできごとを論理的にとらえさせたい。			
単元の指導計画				
時	主なテーマ・問い		主な学習活動	評価方法
1	鎌倉幕府はどのようにして成立したか。		年表や資料を用いながら、鎌倉幕府の成立の経過を理解する。	プリント記入 確認テスト
2	中世の武士はどのような役割を果たしていたのか。(本時)		下記参照	行動観察 プリント記入
3	北条氏や後鳥羽上皇にとって将軍とはどのような存在だったのか。		史料を用いて、御家人と公家にとっての将軍のもつ意味を理解する。	プリント記入
4	北条氏はなぜ一世紀以上も執権政治を続けることができたのか。		史料を用いて、執権政治がどのような仕組みで行われていたか理解する。	行動観察 プリント記入
本時の目標	(1)公武二元支配のあり方を理解する。 (2)古代から近世にかけて武士が果たした役割や呼称がどのように変化・継承されたかを理解する。 (3)中世とはどのような時代かを把握する。			
評価規準	別紙ルーブリック参照			
学習の展開				
	学習活動		指導上の留意点	評価方法
導入 5分	Q1 「中世」に武士はどのように描かれているのか。 ○予習ワークシートの内容の答えを確認する。		○つかみの発問を提示する	行動観察
展開 40分	Q2. 「中世」に武士はどのような役割を果たしていたか。 Q3. 古代～近世にかけて武士はどのように呼ばれているか。 ○予習ワークシート内の()の用語の共通点を答える。(5分) 例：「武士に関連した用語」		○課題提示の発問を提示する。 ○武士のもつイメージは様々あるが、今回は「中世」という時代の武士について考えることを強調する。 ○思考拡散の発問を提示する。 ○ワークシート内の()の用語の共通点を答えさせる。 ○武士は時代ごとに様々な名称と役割をもっていることを理解させる。 ○秀吉の検地・刀狩り・人掃により兵農分離が進んだことを注目させ、それまで多様な武士の存在・役割があったことに気づかせる。	行動観察

	<p>Q 4. 中世に武士は下部構造の中でどのように位置づけられるか。</p> <p>○ワークシートの3つの図の空欄を補充し、それぞれの図で対応し合う語と、「武士」とよべるのはどの立場かを確認する。(ペア) (5分) 例：開発領主 荘官 在庁官人 預所代 郡司・郷司・保司 下司 公文</p> <p>Q 5. なぜ中世に武士は力を持つことができたのだろうか。どのような役割を担ったのか。</p> <p>Q 5-1. ワークシートを時代区分するとⅠ～Ⅵの6つの時代に区分できる。その変化の原因はなんだろうか。</p> <p>○板書を見て、時代が変化していく要因を考えさせる。 (5分) 例) ① 徴税目的で国司が荘園・開発領主を圧迫してきたから ② 朝廷が荘園整理令を発し、荘園を解体しようとしたから ③ 武士が強大化し、関係が逆転し、幕府(武士)を通じて徴税するという形に転換したから</p> <p>Q 5-2. 鎌倉時代の武士の役割について史料からはどのようなことが分かるだろうか。</p> <p>○ジグソー学習のためのワークシートを受け取り、まずは個人で読み取り作業を行う。 (6分)</p> <p>○エキスパート活動。同じ課題があたった3名ほどで史料に書かれている内容確認を行う。(6分)</p> <p>○ジグソー活動。ワークシートに書かれた番号が同じ生徒同士で、担当史料について説明し合う。(6分)</p> <p>○グループでの交流を踏まえて、武士の果たした役割を文章化し、ワークシートへの記入をする。(7分)</p>	<p>○思考焦点化の発問を提示する。</p> <p>○予習ワークシートと3つの図を比較しながら、武士と考えられる人々を赤字で括弧させる。</p> <p>○思考深化の発問を提示する。</p> <p>○以下の図を板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Ⅰ 開発領主 ↓① Ⅱ 寄進・自衛により武士の誕生 ↓② Ⅲ 武士団の成立 ↓③ Ⅳ 幕府の成立</p> </div> <p>○①～③の要因を生徒に問う。 ①なぜ寄進したのか。 ②なぜ武装し、団結したのか。 ③なぜ幕府が承認されたのか。</p> <p>○ワークシートについては課題A・B・Cのいずれかと番号が記入されていることを伝える。</p> <p>○時間短縮のため、座るべき席はパワーポイントで提示する</p> <p>○理解するだけでなく、他者へ説明する意識をもたせる。</p> <p>○単なる書き写しに終わらないように、口頭で伝えられたことをメモするように意識をさせる。</p>	<p>行動観察</p> <p>ワークシートへの記入</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○本時で分からなかったことについて問いを立てる。</p>	<p>○授業を通して、どのような疑問点が生まれたか考えさせる。</p>	<p>ワークシートへの記入</p>

ウ ルーブリック

	評価の観点 (評価の証拠)	S	A	B	C	D
1	知識	古代から中世への時代の変化の中で武士の役割がどのように変化したかを説明できる。	上部と下部構造における中世武士の役割について、キーワード間の関係を自分なりの言葉で説明できる。	上部または下部構造における中世の武士との役割についてキーワード間の関係を自分なりの言葉で説明できる。	上部または下部構造における中世の武士の役割に関するキーワードを挙げることができる。	中世の武士の役割が理解できない。
2	スキル (シグソー法)	シグソー班の活動を通じて、様々な権力との武士との繋がりを整理し発表することができる。	自分の担当史料の説明だけでなく、シグソー班での活動を通じて他者の担当史料に書かれた内容について理解することができる。	エキスパート班での担当史料の内容を理解し、シグソー班で他者に説明できる。	エキスパート班での担当史料の内容を理解できる。	エキスパート班での担当史料の内容が理解できない。
3	資質 (質問)	歴史の授業で使われている「中世」という時代の性格を定義しようとしている。	授業内容を踏まえて、他の時代や現代と比較しながら問いを立てることができる。	授業内容の範囲内で How や Why、If などを使った問いを立てられる。	授業内容の範囲内の What の問いに留まっている。	問いを立てることができない。
	質問例	①武士の活躍した「中世」とはどのような時代か。 ②古代・中世・近世を区分するものは何か。 ③中世はいつからいつまでを指すのか。	①近世に武士の役割はどのように変化するのだろうか。 ②近世に中世の武士の役割を果たしたのはどのような人々だったのだろうか。	もし、武士がいなければ中世社会はどうなっていたのだろうか。	武士は幕府とどのような関係を形成していたのだろうか。	問いを立てることができない。

エ 振り返り

①「授業デザイン」・「ループリック」作成上の工夫

平成 30 年告示の高等学校学習指導要領の「日本史探究」では、「思考力・判断力」として「社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて、歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色や、事象相互の関連を多面的・多角的に考察する力」が挙げられている。生徒が能動的に考察できる授業を目指して、これまで史料読解を含む「課題解決型ジグソー法」の授業実践を行ってきた。その経験を踏まえつつ、「中世の武士はどのような役割をはたしていたのか。」という本質的な問いの解決を目指す授業デザインを目指した。ループリックについても、「読解」から「説明」へ、さらには新たな「問い」の組み立て、と生徒がより高次の思考・言語活動を行うことを意識した。

本時では「中世の武士」を問いの対象とすることで、既習事項である古代からの「展開、変化、継続など諸事象の推移に関わる視点*」を意識させることも重視した。昨今では武士の起源の学説が多岐にわたっている事情もあり、教科書の記述をただ読んでいるだけではこれらの推移を理解することは容易ではなく生徒の理解が不十分になりやすい。そこで教科書に登場する記述や図を踏まえつつ推移を考えさせることと、教科書に掲載されていない史料読解とを両輪とした授業デザインを作成することで既習内容の整理・定着と発展学習を図った。

②授業実施(当日)

当日は予習内容の全てを確認するのではなく、より考察が必要な部分の確認にとどめるなど、主となる展開に多くの時間を割けるように工夫した。事前の予想通り、武士のありかたの推移を提示し、その要因を生徒に答えさせることは容易ではないため、少しずつヒントを与えながら答えを提示する形になった。その後の史料読解については限られた時間であったが、机間指導をして生徒の答えを引き出しつつ進めることができた。事前の予想通りまとめまでの到達はやはり厳しかったので、次回の授業までの課題とした。



③実施後の反省

推移の理解と史料読解、さらにそこからの問いの解決、これら全てを盛り込もうとすると 50 分の授業の中に入れるのは困難であった。その結果武士のありかたの推移の要因が論理的に導きづらく教員による誘導が増えてしまったり、史料読解とのつながりが曖昧になってしまったりした。教材の提示の順序や役割を変更し、史料読解で共有した知識をもとに武士の変化要因を考えさせた方がより能動的に解答を導くことができたのではないかと考えた。

また今回の授業の前提となる予習の徹底を図ることも十分にできていなかった。日頃から生徒に習慣づけさせることが必要であると感じた。

良かった点としては、今回の授業で武士のありかたの推移を考察させたことで、武士の支配が及びにくくなる室町時代の惣村の成立の授業など、その先に単元の指導が容易になったことが挙げられる。今後の授業展開にも生かしていくことを心掛けたい。(文責：安藤)

* 平成 30 年告示の『高等学校学習指導要領』解説で「社会的事象の歴史的な見方・考え方に沿った視点」として挙げられている視点の 1 つである。